

東京都自立支援協議会第一回本会議（平成26年5月30日開催）概要

<全体会①>

【新規委員の紹介】

伊野委員、内藤委員、溝口委員、本田委員（欠席）

【欠席委員の確認】

本田委員

【議 事】

(1) 「第三期東京都自立支援協議会討議のまとめ」(案)について

(2) 平成26年度事業計画について

(3) 第四期運営方針素案について

○ 資料1～6（事務局説明）

（沖倉会長）〈第三期東京都自立支援協議会討議のまとめ〉

第三期前期の討議のまとめについては、事前にお示しした資料のほか、会長名で前文を作成した。

前文の内容は、第三期前期で行った討議の手続の説明、そこから得られた結果（資料3）、前期で取り上げられなかった課題をいくつかお示した。

もし事実誤認等があればお知らせいただきたい。問題がなければ、最終校正の上、確定版としたい。⇒ 了承

〈平成26年度事業計画〉

大枠は、昨年度の本会議で示されたものと同じ。

地域自立支援協議会交流会については、何人かの委員にご協力いただき、6月以降に検討会を実施したい。この後のグループ討議では、交流会のテーマについて、皆さんの意見をいただきたい。

協議会セミナーについては、都の協議会として情報発信していくという使命がある。交流会のテーマに関するご意見も参考にしながら、会長、副会長で下案を作ってお示ししたい。⇒ 了承

〈第四期運営方針素案〉

都の協議会としては、人材育成についても検討していく必要がある。昨年度までは、計画相談等に注目が集まっていることもあり、具体的な議論ができていない。第四期については、人材育成について議論を深めていきたいという提案。本日の議論なども踏まえて、27年3月の本会議で決定したいと考えている。

○ 意見等

（今村委員） これまで、ライフステージに沿って、いろいろな課題整理を積み重ねてきた。しかし、この積み重ねてきた議論がどこにどう反映されるのかわからない。難しい面はあるが、見えてきた課題をどうするかということについては、「連携が大事」

ということで終わってしまっている。

東京都の仕組みでは、「障害者施策推進協議会」という障害福祉計画について議論している組織がある。自立支援協議会での意見をそちらに挙げるといった仕組みを作るなどが必要ではないか。議論の積み上げをどう現場に反映していくのか、仕組みづくりを考える必要があると思う。

(中林委員) 課題を挙げることはいいが、その先のビジョンが見えない。この議論がきちんと政策に反映されなければならない。

(沖倉会長) 議論のまとめがどのように活かされていくのかという指摘だった。今村委員からも話があったが、障害福祉計画の改定の時期であり、東京都では推進協議会が立ち上げられている。自立支援協議会として意見を述べさせていただくことがあろうかと思うが、渡辺委員、現在の推進協議会の動き等についてはどうか。

(渡辺委員) 推進協議会の方は、今年度の第一回の日程がまだこれからというところ。推進協議会の委員の皆さんの意見を聴いた上で、会長や事務局ともご相談して、この議論をどのように取り入れていくのか、皆さんのご意見を聴きながら進めていきたい。全体的な意見については、会長が言われたように意見照会があると思うので、その節はよろしく願いたい。

(沖倉会長) 議論のまとめをどうしていくかということについては、ここではなかなか明確にできない。推進協議会の動きを視野に入れ、タイムリーに、私たちの活動について紹介しながら、意見交換ができればよいと考えている。

(4) 報告事項

① (渡辺委員) (資料7説明)

② (鈴木委員) 一般社団法人精神障害者地域生活支援とうきょう会議では、平成24年度から東京都の指定を受けて、相談支援専門員の従事者養成研修を実施している。24、25年度で合わせて100人超の方が研修を修了している。

26年度については現在日程調整中だが、9月中旬から12月中旬にかけて、7から8日間の日程で実施する予定。決定次第、とうきょう会議のHPでお知らせする。